（別紙4）　　平成　21　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3391000019		
法人名	社会福祉法人　愛誠会		
事業所名	グループホーム　心		
所在地	岡山県新見市唐松１７４９－２		
自己評価作成日	平成２２年３月１９日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3391000019&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ライフサポート
所在地	岡山県岡山市北区南方２丁目１３－１　県総合福祉・ボランティア・ＮＰＯ会館
訪問調査日	平成22年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ケアが施設内で完結する事がないよう、常に地域・家庭と繋がっているよう心掛けている。地域の行事やイベントへの参加や自由な外出・散歩・帰宅など地域生活者としての主体性を尊重している。家族とのコミュニケーションを重視し、常に相談、協議の対象として、ケアの方向性を共に模索する関係にある。認知症が進行しても、本人のできることの可能性を最大限に見出し、ケアプランに自立支援を組み入れ、本人が障害の度合いに関わらず活き活きと、自信を持って毎日を過ごす事ができるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

新見市の唐松地域に特養ホームを中心に居宅介護支援事業所を展開し、その一つがこのグループホームである。このグループホームのサービス評価を行うに際して、どうしてもこの社会福祉法人全体の事を考えないとこのホームの良さや特徴が語れない。まず全施設とも広大な土地に、すべて1フロアにして、余裕のある空き地を持ち、周りの山や田畑を借景にすると、心の和みが実感出来る。この法人の特長は、どんな施設でも利用者が人間として社会の中で生活出来る様支援していく事である。職員が自分自身の研鑽に努め、質の向上を図る事を支援すると同時に、職員の仕事と子育てが両立出来る様委員会を作り、職員の意見を汲み取って支援している先駆的な存在である事を強調しておきたい。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

（セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。）

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念の基にホームとしても、一人ひとりの心に視点をおき、その人らしさを大切に生き生きと生活できるケアに努めている。	法人の理念が基本にあり、グループホームの介護理念を決め掲示されている。ケアを日常行う上での基本的な考え方の指針を示しているもので全職員が共有している。何か違った、あるいは間違った結果が出た時、振り返って見る根拠となるものである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の各種団体との様々な形での交流が30年間続いており、施設自体が地域住民の憩いの場、研修の場、イベントの場となっている。また、防犯上も子供110番の場所、避難場所として地域に認識されている。	唐松地域として法人全体が交流を深めており、ボランティアの人が色々な芸を披露して利用者全員を楽しませてくれている。その中で園児や小学生等がホームを訪れて利用者を癒してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成においては講師を派遣し、また認知症ケア等取り組み等について、地域住民やご家族に対し実践報告会を、年2回開催し、ケア内容を公開するとともに、認知症に対する理解やケア方法を還元している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告とともに、参加メンバーからの質問、意見、要望をうけ、課題を話し合いサービスの向上、地域の理解が得られるように取り組んでいる。	運営推進会議要領を策定して、市職員･利用者代表･家族代表･民生委員等が委員として参加し、ホームの関係者と共に年6回開催している。ホームの情報提供と共に運営や行事等について意見交換している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会に毎回、新見市高齢者支援課職員の派遣を要請し、会議に出席してもらい、各委員との情報共有や情報交換、地域との連携状況、ケア状況について市としての意見を求めている。	市の担当者が運営推進会議に出席して、行政の動向や制度の改編について情報提供してくれる。日常の報告事項や申請はきっちりと行っているが、おもな折衝等は法人全体として事務所の方で行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみで外出される利用者にはさりげなく声をかけたり、一緒に外出し安全面に配慮している。転倒のリスクがある方には見守り、家族にも予測されるリスクについてお伝えしている。	身体拘束や虐待の防止については色々な事例を示し、本人の行動を制約していないかどうか意見交換して、日常の業務に生かしている。病院に入院していた利用者がつなぎ服を着用して帰ってくる事があるが、直ちに中止した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	社内研修で高齢者虐待防止法などについて学び、理解できるようにしている。また職員の言動が心理的虐待にあたることがないように、自分自身を振り返る努力をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、関係機関からの研修で学ぶ機会をもっているが、活用できる支援ができていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	契約時は法人の職員と管理者が、重要事項説明などを行っている。事業所でできること、できないことなどの説明や、不安に感じていることなどについても説明、納得を得ていただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、面会時や電話連絡時などに遠慮なく要望等言ってもらえるようにしている。要望などはミーティングで話し合い、反映させている。	利用者の身体機能や精神状態の変化してきた事を家族に説明しながら、このようなケアをしていきたいと具体的な話をしながら、お互いの気持ちが共有化出来る様コミュニケーションを常にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善委員会、両立支援委員会において協議され提案された意見や改善点について、全体に周知すると共に、幹部会議に提案し規則への反映等を行っている。	仕事と子育てが両立出来る様、職員が加わった委員会があり、職員の意見を提案し易い制度がある。託児所も法人内にあり、育児休暇も男女問わず取得しているそうだ。法人も職員の事をよく考え、職員の意見や気持ちを発し易い環境にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている	毎年、職場内研修を年2回30講座程度を企画し実施している。さらにキャリアパス制度を就業規則において定め、職階と問われる能力、必要な資格及び給与への反映等が明確に示されている。子育てしやすい職場環境としてくるみんマークの取得と、ワークライフバランスに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初級･中級･上級別に研修を行い、それぞれのレベルに応じた指導･教育を行うとともに、新人職員には一年間を限度にプリセプターを置き、職員の定着と育成に当たっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修に積極的に参加させると共に、法人内の他施設研修にも参加させ、モチベーションとケア内容の向上を推進している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安な気持ちに配慮できるよう、職員みんながより一層メンタルケアを重視した対応を行っている。又、職員が意図的に働きかけを行いながら、他のご利用者の方との関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の段階でご家族が不安に思っていること、要望などをお聞きし、これまでの過ごし方を伺いながら、要望や思いに応えれるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前に職員が会いにいったり、事業所に来てもらい徐々に馴染んでいただくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の方と共に行い、同じ時間を共有することを大切にしながら支援している。その中で、ご本人のできる能力を引き出したり、又より深く知りたいという思いをもちアセスメントを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、できるだけご家族の要望を引き出せるようにし、共にご本人のケアの方針･方法について考え･支えていくという関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで大切にされてきた事や、馴染みの人等との関係が継続していけるよう努めている。	特養ホームの短期入所を利用していた人がグループホームに入所するケースもあるが、職員がホームに何回も連れて来て、、利用者同士が馴染める様ホーム体験をして、入所時には安心して過ごせる為の配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、職員が意図的に関わりながら、利用者同士で共に支えあえるような関係作りができるように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方についても、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、生活環境・支援の内容や注意が必要な点等について情報を提供し、連携に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、一人ひとりの思いや希望・気持ちを引き出し、把握できるように努めている。	利用者と職員の日常のコミュニケーションの中から気付いた事もしっかり把握し、利用者の気持ちを大切にしている。利用者一人ひとりの状態や気持ちの表出の度合いも考慮しながら、心の通じ合いを大切にしている。	今でも職員は利用者とのコミュニケーションをよくしているが利用者との心の通じ合いとそこから発する言葉や表情から察知する情報には限りがない。職員の感性の豊かさを高める努力は今後も続けて欲しい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活暦や、馴染みの暮らし方などについて、プライバシーに配慮しながら、ご家族の方などからもより多くの情報をお聞きし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、その日によっても状態が違うため、日々細かい観察を行い見極めながら、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	いろんな方面からのアセスメントを行い、ご本人・ご家族からの希望を引き出すとともに、課題について話し合いを持ち、それぞれの意見を反映した上での介護計画を作っている。	ケアについてもＱＣ的発想により事故防止等、各自の目標を立てて日常業務に生かしている。介護計画の策定や記録、モニタリング・カンファレンスの実施状況からも色々考慮している様子が伺えた。	介護計画策定の中で、利用者の身体的・精神的状態の変化から来る生活上の問題点からその要因分析をして、原因究明を深めていき、介護項目を具体的にすると更に適切なケアに結び付くと思う。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・ケアについての記録等、細かい所まで個別記録に記入することにより、職員間での情報の共有につなげ、又実践へ反映できるように活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援に対して、柔軟に対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域生活者として、これまでの生活を継続できるよう、活用していた地域資源を知ると共に柔軟に活用しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医へ毎月通院介助を行い、普段の様子や変化を伝えている。受診外でも体調変化などがある時にも連絡、相談を行っている。	法人の特養ホームと隣接しているので、その医療機能が使え、安心出来る。利用者の掛かり付け医にはホームで受診支援をしており、家族も同席したり報告をして利用者の健康状態は共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護士で判断できないような場合、唐松荘の看護師に相談し助言を受けることがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を医療機関に提供し、職員が見舞った際などにも、関係職員から回復状況等情報交換をしながら、退院支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ該当者がいないが、ターミナルケアに関する指針に則り、可能な限り支援する方針がある。	法人の特養ホームに利用者も申し込みをしているが、本人や家族がこのグループホームでずっと生活したいと希望すれば、入院等の医療行為が発生しない限り、ずっとホームで暮らせるようにしている。ターミナルケアについては未だ未経験だが、今後の検討課題としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修や消防署の協力を得て救急手当てや蘇生法の研修を実施し、事故発生時に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月特養と合同による避難の実践訓練や非常用機器の取り扱い、夜間想定の訓練などを行っている。地元消防団との合同練習を行うこともある。	日常の訓練や消防機関との連携もしているが、このホームの建物の特長として外に接する壁面はガラスが多く、そのガラス面の開口部が掃出しの開き戸になっており、いざという時は脱出し易い。スプリンクラーも設置予定である。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの気持ちを大切に考え、自尊心を傷つけないような、言葉かけや対応に配慮している。	職員は利用者にゆったりと判り易く声かけをし、利用者は自分で出来る事･役立つ事をし、自信をつけ生活している。雑巾を縫って職員に渡し、他人さんの仕事であれば指を丸くして「これをたんと貰わんといけん」とニコッと笑っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた選択肢を用意して、選びやすいような働きかけをしている。また意思表示が困難な方には、表情や反応を見ながら自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の状況にあわせて、本人の気持ちを尊重しながら、得意なことを働きかけたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意向を大切にさりげなく声をかけ支援している。行事や外出時にもお化粧やおしゃれが楽しめるよう取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付けなどをできる方と一緒に行っている。食事はできるだけ同じテーブルでとるようにし、楽しく食事ができるようにしている。	食事は法人調理場で献立を考え、ホームで材料を取りに行き、調理を行う。調理方法を変更したり、特別メニューはホーム独自で利用者の希望で行っている。自分のエプロンで自分の家の台所の様にかいがいしく動いている利用者達である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立をもとに栄養バランスは確保できている。食事量のチェックや、水分量の少ない方は好みの飲料を工夫している。また疾病に応じた調理も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後本人の力に応じた口腔ケア(うがい、義歯洗浄、歯磨き) を行っている。週1回程度ポリデントによる義歯洗浄、うがいを行い口腔内を清潔に保ち嚥下障害の予防に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、自尊心に配慮した適切な声かけを行い、トイレでの排泄をそれぞれの方法で支援している。	各居室にトイレがあるので、便座に座って排泄する事を基本としている。部屋内の移動を短くする為、ベッドの位置で調整している人もいる。病院からつなぎ服で帰った人も、ホームでは紙パンツになり、尿意も出ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの消化機能の状態の把握、体操、ゲーム、散歩などの運動、飲食物の工夫を行い便秘予防、解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの能力に合わせ、入浴方法を決めている。入浴前は必ずバイタルチェックを行っている。ゆず湯など季節感を大切にし、入浴を楽しんでいただける工夫をしている。	希望があれば毎日でも入浴出来る。希望を聞いて入浴、平均すると2日ないし3日に1回の割合で。「ええ気持じゃけん一緒に入りんちゃい」と職員を誘ってくれる。職員が2人で介助する人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を大切にし、その時々の体調や状態に合わせて、ゆっくり休息したり気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用している薬の目的、用量、用法、副作用を把握し、確実に服用していただき、症状の変化等の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの力に応じた役割を持っていただき、生活の中でご利用者の力が発揮できるように支援している。一人ひとりの趣味や好みを生かし、楽しく生活ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の気分で散歩や買い物出にかけたり、また花見、紅葉狩りなど季節を感じていただけるような外出支援や、趣味に合わせて、美術館、分化展の見学、地域の催し物などの参加支援を行っている。	天気が良ければホームの周辺（法人内施設）が絶好の散歩コース。地域の文化祭に作品を出展し見に行く。法人の催しに参加する事が多く、踊りや映画・子供の歌や演劇・神楽等を見て楽しむ事も出来る。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で支払い管理できる方は、買い物の支払いを見守り支援している。盗られ妄想や混乱がある方は所持していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や手紙が書ける方にはやり取りができるよう支援している。返事を楽しみにされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、季節感のある小物や飾りつけを行い、安心感の持てる雰囲気作りをしている。3人がけのソファーやイスをいくつか配置し、思い思いの場所で居心地よく過ごせる工夫をしている。	リビングの壁に桜が満開。利用者と職員の合作である。中庭には色とりどりのパンジーがプランターに春を、チューリップは小さいながらも花を付け、花好きな利用者の目を楽しませてくれる。建物の窓からの風景は心を和ませてくれる絵のよう。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良い場所にイスを設置、和室には掘りごたつがあり、それぞれその時々の気分で利用者同士で語り合ったりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人や家族の希望に応じて、使い慣れた道具や家具を配置している。またご本人の生活に合わせ畳の居室にしたり、居心地の良い空間作りに努めている。	利用者の部屋はソファにテーブル、上にはお花が一杯飾られ「この花は昨日かな貰ったんよ。こんなに開いて、高いばかりがいい事ないんよ、こんな花でも奇麗でしょう？」と。又自分の作品の仏画・主人の写真・位牌を飾りお友達と話が弾む。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごしていただくため、足元の障害になるようなものは置かないよう環境整備を行っている。		